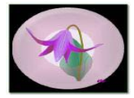
かたくり



第９号

2013年
2月25日
福島大学
行政政策学類
編集・発行

今年度のUプロジェクトについてご報告します。

昨年三月に、『かたくり復刊号（通算第八号）』をお届けしてから、約一年が経ちました。なかなか以前のように隔月発行に戻すことができず、『かたくり』の発行を楽しみにしていただいている皆さまには、ご心配とご迷惑をおかけしていますことを、まずお詫び申しあげます。

さて、もうすぐ東日本大震災の発災からまる二年が経過しようとしていますが、原発災害の影響を最も強く受けた福島の復興はまだ緒についたばかりです。農作物の放射線量は一年目と比べて格段に減少しましたが、風評被害もまだ完全には払拭されておらず、避難地域では帰還の目処さえたっていません。放射能汚染の問題は、子どもや孫の世代までも続くかもしれませんが、あきらめず、今できることからやっていくしかないと考えています。

一日でも早く元の生活に戻って欲しいと願いながら、「地域づくり総合支援事業（県サポート事業）」の助成を受け、Uプロジェクトに取り組みました。今年度も、もち米の作付けと収穫、福島大学祭への参加、ソバうちと講演会など、多くの活動を行いましたが、新たに取り組んだことが三つあります。

まず一つ目は、本格的な除染作業を行ったことです。昨年度もゼオライトの散布やヒマワリの植栽などを行いましたが、やはり学生や住民の農作業上の安全を守り農作物へのセシウムの移行を抑えるためには、農地の除染が不可欠になります。そこで、山際の土を削り取って駐車スペースを確保するとともに、山土をU字側溝より下の農地に入れました。Uプロジェクト一年目を思い出させるような大規模な作業になりましたが、おかげさまで安心して農作業を行うことができるようになりました。

二つ目は、阿武隈地域から避難してきた女性農業者たちが、金谷川地区や福島大学の支援のもと、弁当や餅・漬物などの製造・加工に取り組んでいる、「かーちゃんの力・プロジェクト」との連携が進んだことです。農地の一部を「かーちゃんの畑」として提供し、学生と一緒に、ミニトマト、唐辛子、ナス、キュウリなどの栽培を行いました。

そして三つ目は、学生たちサークルを立ち上げ、授業の一環として、Uプロジェクトに取り組んだことです。福島大学行政政策学類には、学生が主体となって授業を企画・実施する「学生企画科目」というユニークな授業科目があります。学生四人が、「Fukushima と農業―放射能の被害と対策」というテーマで、農作業、農作物の放射線検査、住民インタビューなどを実施しました。一年間の活動の様子はこのあと詳しくお伝えします。

来年度は整備された遊休農地を利活用しながら、いろいろな組織や団体とのコラボレーション（連携と協働）を展開していく予定です。地域の皆さまにも、ピザ窯を大いに利用していただきたいと願っています。今後ともご指導のほどよろしくお願い申しあげます。

一年間の活動について

私たちは大学で「Uプロジェクト」というサークルを設立し、一年間活動してきました。

五月には、田植え、野菜の苗植えなどを主に行いました。田植えは、大学祭で使用するもち米を、塩谷ゼミの一年生も参加して植えていきました。また、大学の遊休農地の除染を行ったうえで、学生用の畑を設け、ジャガイモやピーマン、ニンジンなどを植えていきました。その後、遊休農地内にある、ビオトープと呼ばれる池周辺を整備し、最後は全員で敷地内にあるピザ窯を使って作ったピザを食べました。

六月には、耕運機を使って畑を入念に耕した後、トマト、サツマイモ、スイカを植えていきました。サツマイモは、相馬農業高校飯舘分校の菅野元一先生から苗の提供を得て、そのご指導のもと、十種類以上の品種の苗を植えました。

八月は、蕎麦の種蒔きを行うと同時に、トマト、ピーマン、ナスなどの収穫を行いました。どれも大きく育ち、豊作となりました。

九月は、稲刈りやジャガイモ掘りをし、ビニールハウスの設置も行いました。ジャガイモは、飯舘村のオリジナル品種である、「イータテベイク」を収穫しました。

十一月には、大学祭で、金谷川の方々と共に模擬店を出店しました。

十二月は、ピザ窯の周りに竹垣を作り、それからビニールハウスを完成させました。作業後には、福島大学特任助教の石井秀樹さんが「放射能汚染と食と農の再生」という題目で講演会を行いました。講演会には、地元金谷川地区の住民の方々や学生も参加し、放射能に関する基本的知識や今後の対策の在り方などを学ぶことができ、有意義な機会となりました。石井先生には、小国地区における米の試験栽培調査結果のデータを提示しながら、どのような点に注意すればよいのかを指摘していただき、また、最後の質疑応答の中では実態の改善に向けた対策を提案していただきました。講演会終了後は、蕎麦名人を招いて蕎麦打ちを行い、新そばの味を楽しみました。

学生企画科目発表（二月十三日）

私たちは、「Fukushima と農業」というテーマで、行政政策学類の「学生企画科目」に応募し、先述した農作業をしたり、金谷川活性化委員会の役員の皆さんや菅野元一先生にインタビューを実施したりして、その成果を二月十三日に行われた学内の合同発表会で発表しました。（なお、アンケートについては、報告会に間に合わなかったものの、これから実施いたしますので、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします）

一年間活動してきての感想

今年度は、主に私たち「Uプロジェクト」四人が、塩谷先生、それに、金谷川活性化委員会の皆さん、飯舘村の皆さんなど、様々な方々にお世話になりながら活動してきました。いろいろなことがありましたが、ここに、メンバーの声として、活動してみての感想を最後に掲載したいと思います。

行政政策学類二年　石川雄基

私は今年一年間、大学で立ち上げたサークル「Uプロジェクト」の代表をさせていただきました。一年間いろんな方々と出会うことができ、福島市や飯舘村の今の農業、これからの農業を考える良い経験になったと思います。来年度もよろしくお願いいたします。

行政政策学類二年　白瀬達也

今回、「Fukushima と農業」というテーマの下、学生企画科目というものに参加したことで福島が置かれている現状を身を持って実感しました。畑で実際に作業を行ったことは、放射能について注意しながら、農作物を生産する方々のご苦労を理解することとにつながりました。地元の金谷川の方たちと農地整備や、ビニールハウス設営などを通じて交流を深めることもできました。

また、生産者の方へのインタビューを行ったことで、福島の農業の実態を聞くことができ、今後の農業の再生に自分自身も微力ながらも貢献しなければならないとの思いが強まっていきました。福島の農業は依然大変厳しい状況が続きますが、苦しんでいる生産者の方の声を聴き続け、より良い体制の実現に向けてできることから努力していきたいと思います。こうした貴重な体験を糧に、これからも様々な形で福島県の農業について関心を持ち続け、主体的に問題に関わっていくべきであると感じました。この1年間で農業関係者の方々を中心に、たくさんの方の協力を得て、計画を進めることができました。様々な支援をしてくださった人たちに感謝の気持ちを持つとともに、恩返しができるように、大学での授業にも真剣に取り組んでいきたいと考えています。

行政政策学類二年　鈴木雄也

一年間通してさまざまな体験をすることができました。

はじめは除染作業でした。本来の農作業ではいらない工程ですが、土をいれたりゼオライトをまいたりと、とても大変な作業でした。福島の農家の人達の苦労を知ることができました。

そういった作業をした後に、本格的な農作業にはいり、耕したり畝をつくったり、種や苗を植えたりしました。土を耕すといったことは、思っていたよりも力仕事で疲れました。また、種や苗を植えるときに、植える間隔を測ったりするなど、細かい作業などは時間がかかりました。植える作物によって水や肥料の量が違うので、そういったことに注意することも大変でした。

夏になり収穫できるようになり、自分たちで育てたものが、しっかりと成長しているのを見るとうれしかったです。

一年間の作業は初めての経験が多くて、とても勉強になりました。野菜をつくるということはとても大変だということ肌で感じることができました。

また、放射能の対策ということを体験して、これからの福島の農業をさらに考えていかなければならないと思いました。

行政政策学類二年　中村遼

一年間農業をやってきての感想は非常に大変であったということです。二年前に塩谷弘康先生の教養演習に所属した時に何気なく始めた遊休農地での作業でありましたが、気付けばもう二年の付き合いであります。昨年度は右も左もわからずただ言われたことだけをやる感じでありましたが、今年度は農作業の指導のために相馬農業高校飯舘分校の教諭の菅野元一先生を指導者としてお迎えできたことで主体的な農業を行えるようになったと思います。まだ、作物の特徴を理解できずに枯らしてしまったりすることもありましたので、来年度は成功できるようにしたいです。

また、今年度も地域の方々と遊休農地の整備を行い、普段の大学生活では得られないような経験（ビオトープ整備など）を数多くできたのではないかと感じています。私は将来公務員になりたいと考えていますので、この地元金谷川の方と遊休農地で様々なことを生かせればいいなと思っています。遊休農地のハードの面での整備はだいぶ落ち着いたと思うので、来年度はじっくりと腰を据えて農業をやっていければいいなと思っています。

アンケートのお願い

今年度、私たちは学生企画科目「Fukushima と農業―放射能の被害と対策」を企画し、実際に農作業を通じて放射能汚染の実情を知るとともに、農家の方々へのインタビューを通じて、福島の農業の復興のあり方について考えてきました。この活動の一環として、より広く、金谷川地区にお住まいの生産者と消費者の方のご意見をうかがいたく、今回、福島市役所松川支所のご協力を得て、アンケートを実施させていただくことにしました。誠に勝手ではございますが、アンケート票にご記入のうえ、三月十日までにお近くのポストにご投函下さい。お忙しい中恐縮ではございますが、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。集計結果は、『かたくり』を通じてご報告いたします。

お知らせ

昨年度の塩谷教養演習の有志が集まって、遊休農地で活動するサークルを立ち上げ、一年間活動してまいりました。これまで以上に、活発に活動して、遊休農地を、「学びの場」「憩いの場」「交流の場」として利用していきたいと思います。今後とも、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。本号の編集は、サークルのメンバーである、石川雄基、白瀬達也、鈴木雄也、中村遼が担当しました。